

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰Ⅱ」
「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

第6回 神さまの永遠の記憶

信者でない方が数多く参列される葬儀ミサで、時々お話しすることです。私たちの人生は一枚の織物にたとえられることがあります。その人の死によって、この織物は完成します。織物をよくよく見てみれば、亡くなられたご本人の縦糸に、出会った人たちという横糸がしっかりと織りあわされているのがわかります。通夜や葬儀という機会は、亡くなった方の永遠の安息と、ご家族に慰めと助けがあるように祈る時ですが、それだけでなく、亡くなった方の人生の織物の中に、式に参列している一人一人の糸が織り込まれていることを確認する時でもあります。

それだけでなく、亡くなった方の人生の織物の中に、命の与え主である神さまの糸が確かに入っていることも確認していく時でもあります。永遠の神さまの糸が入っているのです。

私たちは祈りの中で、時折、亡くなった方々を思い起こします。しかしながら、人間の限りある肉体を通しては、一時的に思い起こすしかありません。24時間、365日、常に思い起こすことは不可能です。しかしながら、永遠の神さまと共に思い起こすならば、その人の思い出は永遠のものとなっていきます。私たち人間の限界を超えて、永遠の記憶となるのです。これが、人生の織物の中に確かに入っている神さまの糸の意味なのだと思います。



仙台教区ガクタン
新司教の紋章と共に

弱い私たちには、常に助けと救いが必要です。愛する人を神さまのもとに送った人たちには、助けと救いが欠かせません。この神さまの永遠の記憶のお話が、少しでも慰めと救いになればよい、と私は願っています。助けと救いをいただいで、また、新しい一歩を踏み出していけるのです。教会では、命日を「ナタリーチア」と呼ぶ習慣があります。これは、「天国の誕生日」を意味します。この世を去った命日が、天国での誕生日になるのです。私たちは神さまといつも共にいることを目指してこの世での人生を生き、そして、この世から神さまのもとに召された時、常に共にいることになるのです。終活とはこのような希望と共に過ごす日々なのでしょう。そして、このような希望こそが、私たちキリストを信じる人たちの心の支えとなり、神さまと共にある深い喜びへとつながっていくのだと思います。

京都教区司祭 森田直樹

(仙台教区派遣中)

7
2022



報告 マグダレナ三千代

京都教区正義と平和協議会（正平協）では、5月14日（土）カトリック河原町教会において、日本カトリック難民移住移動者委員会の専門委員である山岸素子さんを講師にお迎えして、学習会を開催しました。

昨年は、日本の移民問題について学びましたが、今年は外国人労働者・技能実習生と呼ばれる人たちの現状、そして特にカトリック教会の取り組みについて学びました。

昨年同様、新型コロナウイルスの終息が見えない中、会場を提供していただいた河原町教会と、教会の内外からご参加いただいた皆様に感謝いたします。



正平協担当司祭 奥村豊神父の開会の挨拶

◆2018年国連グローバルコンパクトの採択に向けたカトリック教会の取り組み
 ◆2017年9月から2年間、国際カリタスが難民移住者に関する世界的キャンペーンを行いました。

◆2017年、教皇庁人間開発のための部署、移住者難民セクションで「難民と移住者への対応20のアクションポイント」として、教会における難民、移住者に対する指針が発表されました。それには、

- ①受け入れる
- ②保護する
- ③促進する

④共生する：共に地域社会を作る
 という4つの行動が必要であると呼びかけられています。

■教皇フランシスコの呼びかけに込めて、国際カリタスの働き

◆互いに受け入れあい、公正で多様性を尊重したコミュニティ作りを実現するために移住者との積極的な出会いの場を設け、「出会いの文化」を育むことを推進していく。

◆移住者の声を聴き、その声をネットワークを通じて関係諸機関、政府等に届け、政策提言に生かせるように働きかける。カトリック教会が持っているネットワークの活用。

■排除ZEROキャンペーン（カリタスジャパンと日本カトリック難民移住移動者委員会が共同で行ったキャンペーン）私たちが目指すこと

◆出会うー教会を訪れる外国人の人々に声をかけてみましょう。「なぜ」移動、移住しなければならなかったか聞いてみる機会をもちましょう。どんなことで困っているのか聞いてみましょう。

◆知る／学ぶー社会司教委員会が作成した冊子「国籍を越えた神の国をめざして」（1993年初版、2016年9月改訂版）を活用しましょう。研修会や講演会に参加しましょう。

◆行動するーあなたの小教区にいる人に声をかけてみましょう。あなたの小教区では外国人移住者の方々が、教会運営や教会での企画に積極的に参加していますか。



講師の山岸素子さん

■「国籍を越えた神の国をめざして」より

◆多くの人々が移住している現実に変化し続ける「時のしるし」です。国籍を越えた神の国をめざしている日本の教会にとって、挑戦であり、福音宣教の新しい展開を指し示すものでもあります。

◆出会いのなかの問題点―現実の日本社会では、人種、文化の違いに対する無理解から、差別や排外主義の深まりがみられます。多くの外国人移住者は、社会において疎外され、弱い立場に置かれ、非人道的な扱いを受けています。



↑QRコードを読み込むと「国籍を越えた神の国をめざして」の冊子を読むことができます。

■日本カトリック難民移住者委員会の取り組み

- ◆技能実習生Q&Aの活用（日本語、ベトナム語、中国語、英語、タガログ語）
- ◆各地での啓発セミナー開催とネットワークづくり
- ◆人身取引問題部会による支援（シェルターの提供、緊急支援費による支援）
- ◆技能実習ホットライン（コロナ禍での労働問題への対応）

■今、日本に求められる政策とは？

◆疑問と疑問

技能実習制度も「特定技能」による新しい外国人労働者の受け入れ制度も、労働者を短期の「労働力」としてのみ受け入れ、定住する人としては認めない、労働者「使い捨て」制度でないか？

◆カトリック教会として求めること

「人」として、「労働者」としての外国人の尊厳と権利が保障される受け入れ制度への転換。

■参考・2020年現在、世界の移民は2億8000万人、難民・避難民は8240万人と言われています。

■お話を聞いて

私たちは小教区におられる移住者の方々との具体的な出会いによって、知らなかった世界に開かれていくことになるのではないのでしょうか。聖霊の声を聴きながら、生きている人の苦しみを受け止めましょう。手探りの歩みとなるかも知れませんが、忘れてはいけないことは、非人道的な社会構造を作り出している、責任を持っている人たちへの働きかけです。

日本は、国連から人権に関する2000以上もの勧告を受けている、いわば人権

最貧国と言えます。しかし、私たちは、実際に苦しんでいる人がいることに気づくことすら難しい、分断された社会に住んでいます。

イエスがご自分の命を賭けて望まれた社会は、「あの人たち」ではなく、「私たち」として兄弟姉妹関係を生きる社会であるはず。聖霊は、私たち一人ひとりに、出かけていく教会となるように、そして恐れず未知の關係に一步を踏み出すように、働きかけてくださいます。心を開き、共に歩んでいきましょう。



カリタスジャパン ウェブサイトより



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント①

福音朗読後は、

司祭「主のみことば」

会衆「キリストに賛美」

福音朗読前の対話句は、司祭「主は皆さんとともに」、会衆「またあなたとともに」、司祭「○○○による福音」、会衆「主に栄光」となります。「またあなたとともに」は日本への適応に配慮した訳でありラテン語規範版の直訳が「またあなたの霊とともに」であることには留意したいところです（3月号連載第2回参照）。額、口、胸に十字架のしるしをするのはこれまで通りです。朗読後は、司

祭「主のみことば」、会衆「キリストに賛美」となります。現行版では司祭も会衆も「キリストに賛美」と唱えていましたが変更になります。ラテン語規範版では、福音朗読後も第一および第二朗読の時と同じく「Verbum Domini」と唱えることになっていますが、福音朗読後はキリストのことばであることを明確にするために「主のみことば」と訳し、第一および第二朗読後の「神のみことば」と区別されています。

今月のポイント②

信仰宣言の「受肉の神秘」を

述べる部分で一同は礼をする

信仰宣言では、ラテン語規範版に従って、キリストの受肉の神秘について述べる部分で、一同が礼をすることが明記されました。「ニケア・コンスタンチノープル信条」を唱える場合には、「聖霊によって、おとめマリアよりからだを受け、人となられました」の部分で、「使徒信条」を唱える場合には、「主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ」の部分で、一同は礼をします。信仰宣言を歌うときも同様になります。これは

「受肉の神秘において、神の恵みに深い感謝を向ける、ローマ典礼に伝統的な礼拝行為です」(※1)。受肉の神秘については、フランシスコ教皇がこう語られています。「ことばは肉となって、わたしたちの間に宿られた」(ヨハネ1・14)。わたしたちを驚かせてやまないこのことばのうちに、キリスト教のすべてがあります。神はわたしたちと同じように、死すべき弱い者となりました。神は罪を除いてわたしたちの人間的状况を共有しましたが、ご自分のもののように、わたしたちの罪を身に負いました。神はわたしたちの歴史の中に歩み入り、完全な意味でわたしたちとともにおられる神となったのです」(※2)。受肉の神秘という驚嘆すべき神の愛を前にしたとき、人はただ感謝のうちに深く頭を垂れるしかないのです。

※1 カトリック中央協議会「新しい『ミサの式次第と第一』第四奉献文」の変更箇所 30頁

※2 2014年1月5日「お告げの祈り」傍点は筆者

トノシロのじぶみやき

空は詩に包まれる (七月・文月)

子どもたちが歌っている。

「笹の葉さらさら 軒端にゆれる

お星さまきらきら 金銀砂子」

「五色の短冊 私が書いた

お星さまきらきら 空から見てる」

文字書く人や布織る人は、七月七日、その願いを短冊にこめて記し、笹の葉につるした。笹の葉は祈りの木であった。

昔の人は、子どもも大人も詩人だった。祈りの人だった。詩人とは祈りの人のことだ。

だが、今の私たちはどうだろう。まるで、歌を忘れたカナリア。心はすさみ、互いに殺し合う。ウクライナの空で、アジア、アフリカ、アメリカ、

世界の空の下で……。地球は泣いている。至る所で。七月七日(文月七夕)、短冊から祈りが立ちの

ぼり、夜空に祈りが満ちる。平和がありますように。特にウクライナの空に。

七月を文月という。文は祈りの綾錦「笹の葉」

に「言の葉」を記そう。人はみな「みことば」の

「讃え人」また「読み人」となれ。「みことば」は

神への「詩」「詞」「祈り」。「天の川」、祈りの深

い河となれ。

この日、「彦星」と「織姫星」が逢瀬を楽しむ

という。しかし、私たちと神との出会いは、太陽

や月や星のように絶えることはない。その光と優

しさ、愛と命は消ゆることなく続く。

七月・文月、みことばは私たちの中に托身する。



広報委員会担当司祭 村上透磨

皆様こんにちは！

教区時報5月号の「あんてな」でお知らせしていましたが「JYD (ジャパニューズデー)」ですが、残念ながら今年の開催を見送ることになりました。記事を読んでもくださった皆さま、申し訳ありません。ですが、コロナ禍で安心して参加できない人や、制限のために参加できない人がいる中で開催するのはスタッフ達にとっては本意ではなく、「神様のことを考えるのに、今年じゃないといけない理由はない！」という思いから、できるだけ多くの人に参加できる日の開催を目指すことになりました！



カトリック鷺沼教会にてミサ

5月のゴールデンウィークには、スタッフの一部が集まってウクライナのためにテゼの祈りを行い、今後に向けてのミーティングとミサを行いました。

状況が良くなることを願いながら、スタッフ一同、多くの青年に参加してもらえたい企画を考えていきます。

運営委員/河原町教会 橋本 仁子

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について、京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、青年の各種活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



7月のお知らせ

教 区

高校生会

夏の集い

日 時：30日Ⓟ 14:00

場 所：名張教会



聖書委員会

オンライン聖書講座

「人はなぜ病み、苦しむのか—聖書からの問い」

7日Ⓟ配信「ベツレヘムと十字架」

講師：大塚 乾隆神父(京都司教区)

21日Ⓟ配信「彼は試みに遭い」

講師：西 経一神父(神言修道会)

YouTube 申込者限定配信 申込受付中

講座は1か月間視聴可能(有料)

問合せ：075(366)6609 聖書委員会

広報委員会

教区時報の9月号の原稿締切日は7月25日Ⓟです。

ブ ロ ッ ク

奈良ブロック

オンライン聖書講座(全5回)

「今、愛を生き『いのち』をつなぐ
—ルカ福音書に学ぶ—

第3回「いのちを知る—十字架と復活」

講 師：鈴木 信一神父(聖パウロ修道会)

9日Ⓟ 9:00 配信

第4回「聖霊を知る」

講 師：畠 基幸神父(御受難修道会)

23日Ⓟ 9:00 配信

京都教区HP、奈良ブロック

HPから、どなたでも無料で

9月5日まで視聴可能。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日Ⓟ、31日Ⓟ 14:00

洛星宗教研究館

23日Ⓟ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

現在活動休止中。再開時、団員には連絡
します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日Ⓟ、28日Ⓟ 10:00

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075(701)3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：28日Ⓟ 13:00

場 所：希望の家地域福祉センター

住 所：京都市南区東九条東岩本町31-10

※新型コロナの状況により中止となる場
合もあります。

問合せ：TEL・FAX：075(723)1135 傳 裕子

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

K B S 京 都 Ⓟ～Ⓡ 朝 5:55

Ⓢ 朝 5:15

ラ ジ オ 関 西 Ⓟ～Ⓡ 朝 5:00

Ⓢ 朝 6:05

7月のテーマ「美しい」

ホームページもご覧ください。

<https://www.tomoshibi.or.jp>



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ
障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)
裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079 (431) 8601